

受験生ファイト!!

受験勉強でも「理解」→「定着」→「応用」を心掛けよう

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

- ①大学入試センター試験も栃木県立高校入試も重箱の隅をつつくような奇問、難問は一切出題されません。出題されるのは、中学や高校で学習した内容が身につけているかどうかを試す問題のみです。世の中に出て役に立つこと、豊かな人生を過ごす上で大切なことが身につけているかどうかを試す問題が大半です。そこで、大学入試・高校入試ともに受験勉強をする際には、誰かに言われたから無理やりやるのではなく、世の中に出て役に立つこと、人生を豊かにすることを身につけるために行うのだという積極的な態度で行ってもらいたいと希望します。
- ②受験勉強を通じて、中学や高校で習ったことの中で十分身につけていない知識を確実に自分のものにする。中学の内容は高校入試の勉強を通じて確実に身につけてから高校に進学をし、高校の勉強を全うする。高校の内容は、大学入試の勉強を通じて完全に身につけてから大学に進学し、大学での勉強を全うする。このような気構えで受験勉強に臨んで頂きたいと思います。
- ③では、どのように入試直前の勉強をしたらよいのか。

2. 「誤答分析」も「理解」→「定着」→「応用」に沿って行うこと

- ①その試験で過去に出題された問題を最低でも十年分、できれば二十年分、制限時間内に確実に解いてみる。できた問題は OK。「誤答」つまり間違った答えをどう「分析」するか、「誤答分析」が大事です。
- ②ところで、あらゆる勉強には「理解」→「定着」→「応用」という 3つのステップを確実に踏むことが大切と私は考えます。
教わる内容が「うん、なるほど」と腑(ふ)に落ちる、納得するまでよくわかるのが「理解」。一度「理解」したことが条件反射的に何も見ないで言えたり、書けたりするまでになるのが「定着」。「理解」「定着」したことが実際の生活で使えたり、テストに出て点がとれるのが「応用」。大学入試や高校入試の「誤答分析」をする際にも「理解」→「定着」→「応用」の 3つのステップを確実に踏むことが勉強の「コツ」(秘訣)と言えます。
- ③例えば A という問題を間違ったとします。なぜ間違ったか「誤答分析」をしていて、そもそも「A」ということがよくわかっていなくて間違ったのなら「理解」のための取り組みを。A が何であるか「理解」はしていたが、覚え方が不確かであったために間違ったのであれば、「定着」のための取り組みを。「理解」→「定着」まではしていたのだが、問題に慣れていなかったなどが理由で間違ったのなら、「応用」のための取り組みを。各々することが最も効果的な「誤答分析」です。

*但し、Aという内容について自分が「理解」→「定着」→「応用」のどの段階で間違ったのかよくわからない場合は、学校や塾の先生にはずかしがらずに率直にお聞きするとよいでしょう。

④もし、「理解」の段階で間違ったのであれば、「教科書」や「参考書」、「辞典」などをあせらず「ゆっくり」と読み、「うん、なるほど」「これはこういうことだったのか」と「腑(ふ)に落ちる」までになることが大事です。それでも、モヤモヤしたものが残ったら、学校や塾の先生、友だちにはずかしがらずに率直に質問させて頂くことをおすすめします。

⑤もし、Aという内容が「理解」はしているが、書き誤ったり、うろ覚えであったため間違ったのであれば、受験勉強中であろうと「定着」のための「作業」をする以外ありません。「Aとは〜だ。」ということばの意味(定義)を覚えたり、覚えたことを正確に書けるまでにしたり、パターン練習をして、計算は条件反射で問題を見た瞬間に答えが出るまでにしたり…。心を落ちつかせ、「定着のための作業」をコツコツと確実に行うこと。

⑥「理解」と「定着」まではできているが、入試問題レベルの問題に慣れていないことが理由でAという問題ができなかったら、「応用」力を身につけることが大事です。過去に出題された全国の入試問題で、Aと似たような問題を、はじめはゆっくりと、あとはスピードをつけてできるだけ大量に、解きまくることがテストで点をとるという意味での「応用」力を身につけるコツです。

⑦このように、入学試験であっても間違った問題について「理解」→「応用」→「定着」という3つのステップを確実に踏むことをおすすめします。

*実は、この「理解」→「定着」→「応用」は受験勉強以外にも、学校やありとあらゆる勉強にあてはまります。仕事の上で新しいことに取り組む場合にお役に立つと思います。お試しあれ。

3. おわりに—新聞をゆっくり読もう—

①受験勉強で最も大切なことは、問題自体を速く、しかも、正確に読み込むことです。

②最近の大学入試、高校入試は本格的な出題、ものごとを幅広く、又、深く考えさせるものが多いようです。そのために、各科目とも問題自体が長文となっています。問題の正解を出す前提として、長い文章を速く正確に読む能力を身につけていなければなりません。

③どうやって短い時間に長い文章を正確に理解する能力を身につけたらよいか。私は、家庭に毎日配達される新聞を、できれば一時間、一面からじっくりと読み込む習慣を一日も早く身につけることが最も効果的と考えます。どうか、今からでも遅くありませんから、入試の日まで、新聞を一時間じっくり読み込み、それを生活習慣にして頂きますように。

*論文式試験や面接試験には、新聞を一時間毎日読んでいることで、広い見地から深みのある考えを自分のことばで述べることができます。上級学校に行っても、又、社会に出てからも毎日一時間、新聞を読むことを続ければ、勉強面、生活面で計り知れないほど知識が、最終的には「知性」が身につきます。

＊日本語の新聞を読んで、よくわかっている内容について英字新聞を毎日一時間読むと、本当の「英語力」が身につきます。

④最後に、受験勉強をさせて頂けるのは、受験生の皆様を温かく見守って下さっている保護者の方々、御家族の方々、仲の良い親類や友人、知人、先生方のお陰であると、言葉には出さなくてもいいですから、心の中で手を合わせて感謝をする心を常にお持ち下さいますようお願い申し上げます。

では、がんばって。ファイト!!</P>

(2003 年 1 月 15 日記)